

第2章

扶桑町の現況・特性

1. 町の現況
2. 人口
3. 都市活力
4. 土地利用
5. 都市施設
6. 自然環境・都市景観
7. 防災・防犯



1. 町の現況

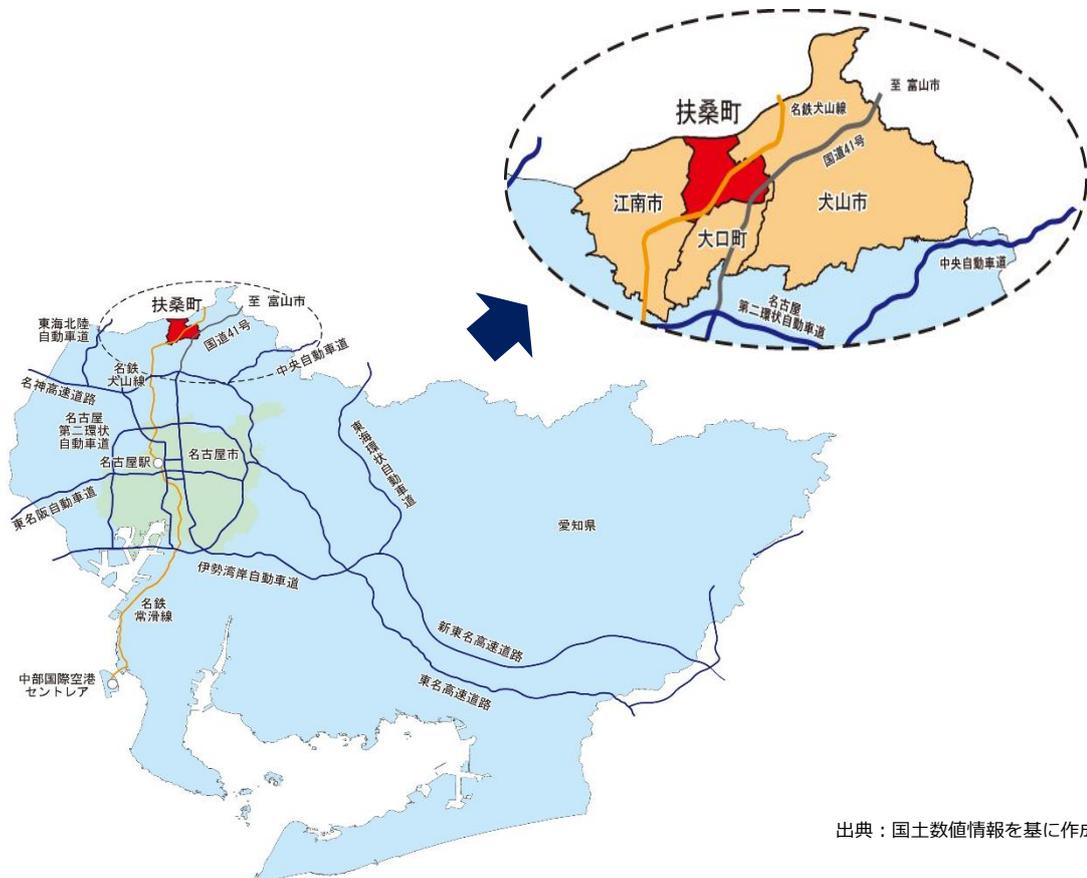
(1) 町の現況

本町は、愛知県の北西部に位置し、中部圏の中心である名古屋市から北に約 20 km の距離にあります。扶桑駅から名鉄名古屋駅まで約 30 分、扶桑町役場から名古屋高速 11 号小牧線を経由して名古屋市都心部まで約 30 分という利便性の高い位置にあり、名古屋市のベッドタウンとして発展を続けています。町域は概ね平坦な地形で、木曽川が本町の北端を東から西に流れており、川沿いにはまとまった自然環境が残っています。

町内を通過する（都）国道 41 号線は名古屋市から富山市に至る一般国道です。昭和 50 年（1975 年）に、名古屋市から岐阜県美濃加茂市までの間が「名濃バイパス」として 4 車線で整備されました。また、名古屋高速 11 号小牧線は平成 14 年（2002 年）に名古屋市から小牧市までの全線が整備され、本町から名古屋市中心部までのアクセス性が向上しました。

公共交通では、名鉄犬山線が平成 5 年（1993 年）に名古屋市営地下鉄鶴舞線と相互直通運転を開始しました。平成 17 年（2005 年）の中部国際空港開業時には、空港直通の列車も設定されるなど、県内他地域へのアクセスは良いといえます。

【扶桑町の位置図】



出典：国土数値情報を基に作成



(2) 法規制の指定状況

1) 都市計画（区域区分・地域地区）の指定状況

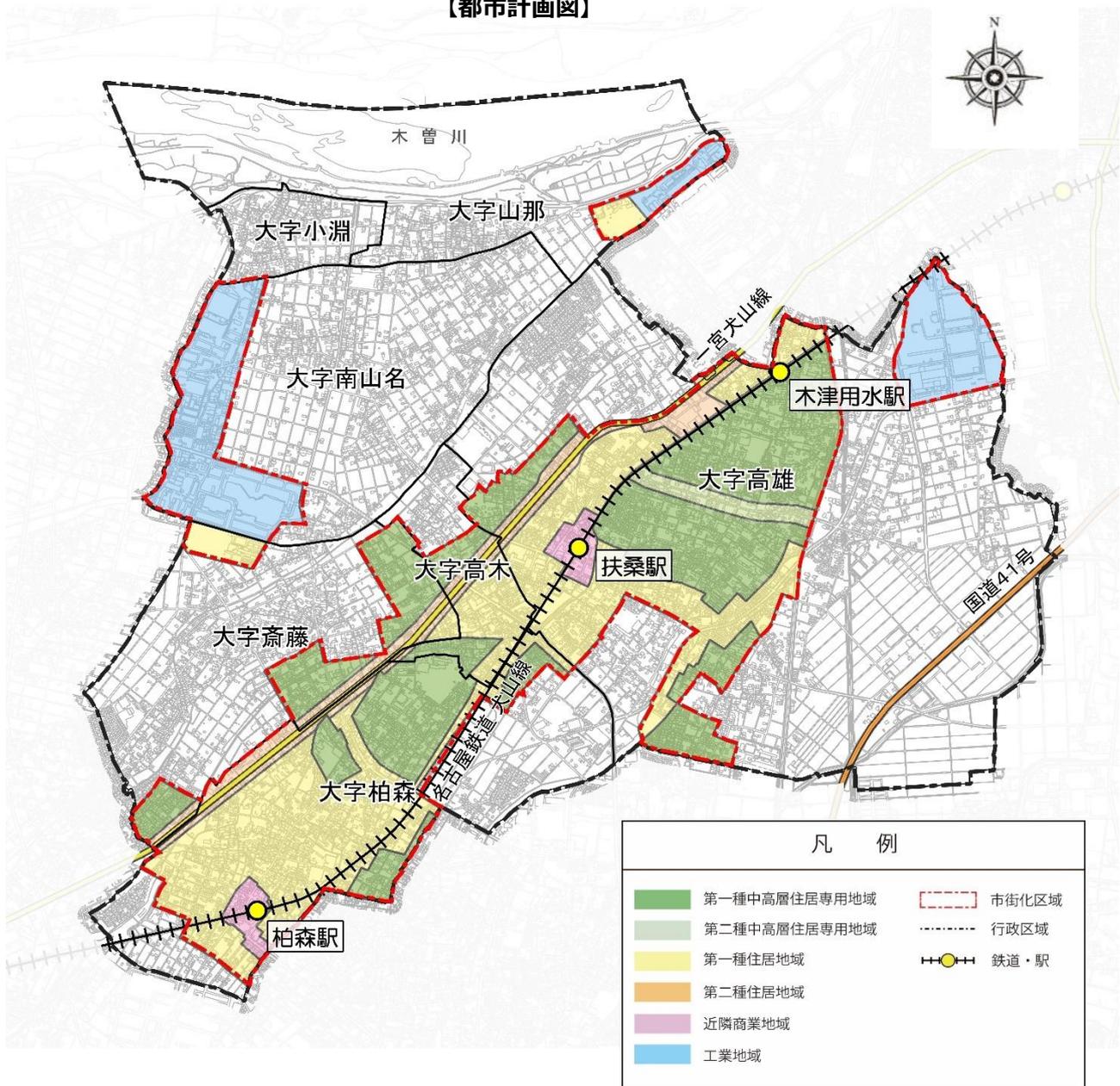
市街化区域が405ha、市街化調整区域が714haであり、6つの用途地域が指定されています。

市街化区域では、主に名鉄犬山線沿いの地域で指定されており、鉄道駅の周辺などが近隣商業地域*となっているほかは、住居系の用途地域が大半を占めています。

2) 農業振興地域・農用地区域

令和2年（2020年）3月時点で農業振興地域*が647ha指定されており、そのうち256haを農用地*区域に指定しています。

【都市計画図】



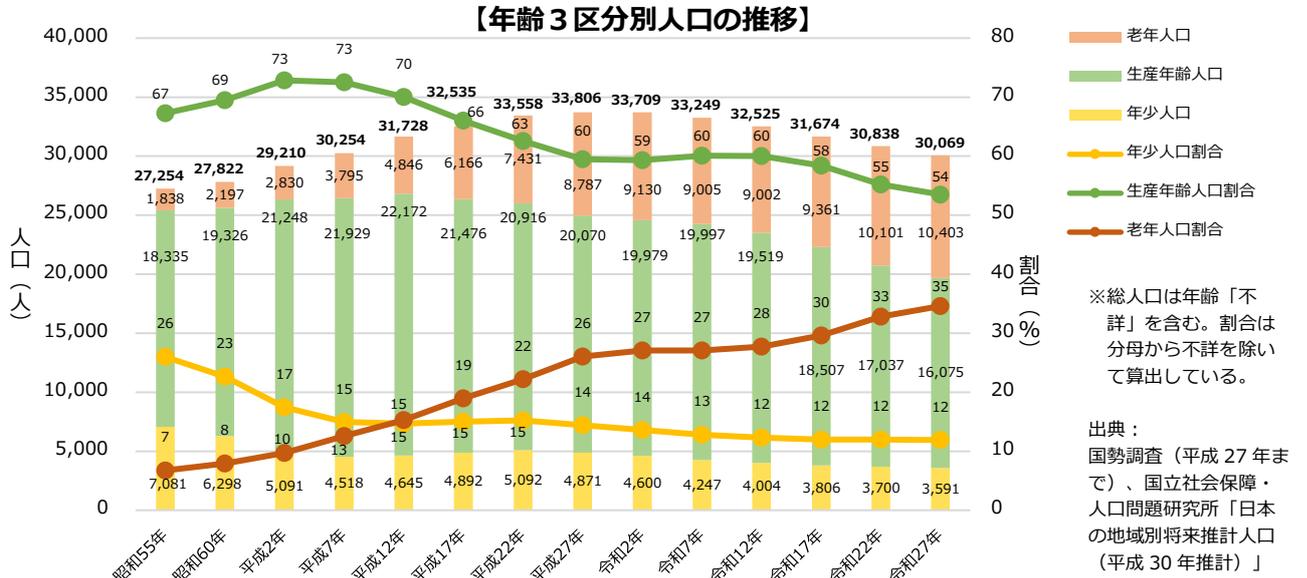
出典：扶桑町都市計画図



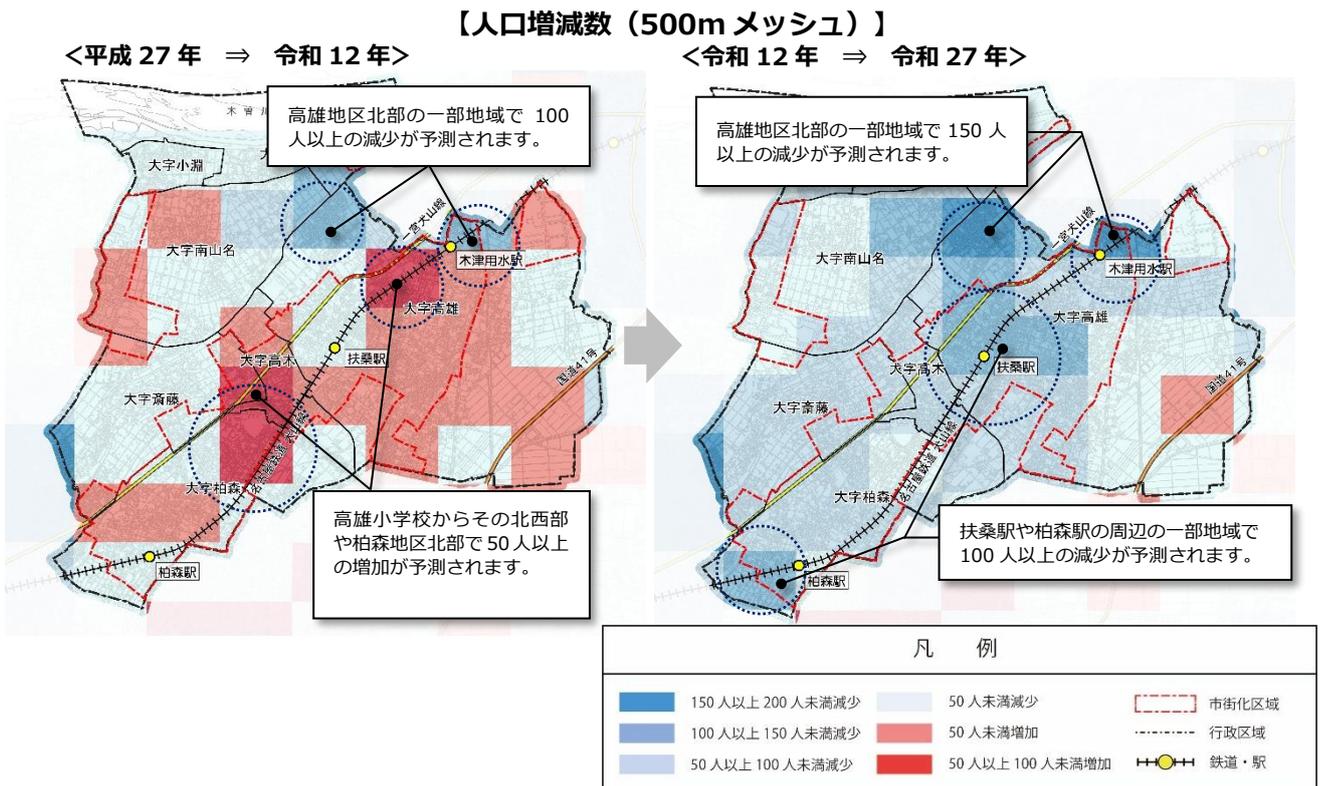
2. 人口

(1) 人口の推移

本町の人口は昭和55年（1980年）以降増加を続け、平成27年（2015年）以降ほぼ横ばいの状況が続いています。今後は減少に転じるとともに、高齢化が進行すると予測されています。



地域ごとに見ると、平成27年（2015年）から令和12年（2030年）の15年間の変化では、高雄小学校周辺からその北西部や柏森地区北部で50人以上の増加が予想されています。一方、人口の減少が著しいのは高雄地区北部の一部地域で、100人以上の減少が予測されます。令和12年（2030年）から令和27年（2045年）の15年間の変化では、町内のほぼ全域で人口の減少が予測されます。特に高雄地区北部の一部地域で150人以上、扶桑駅や柏森駅の周辺の一部地域で100人以上の減少が予測されます。



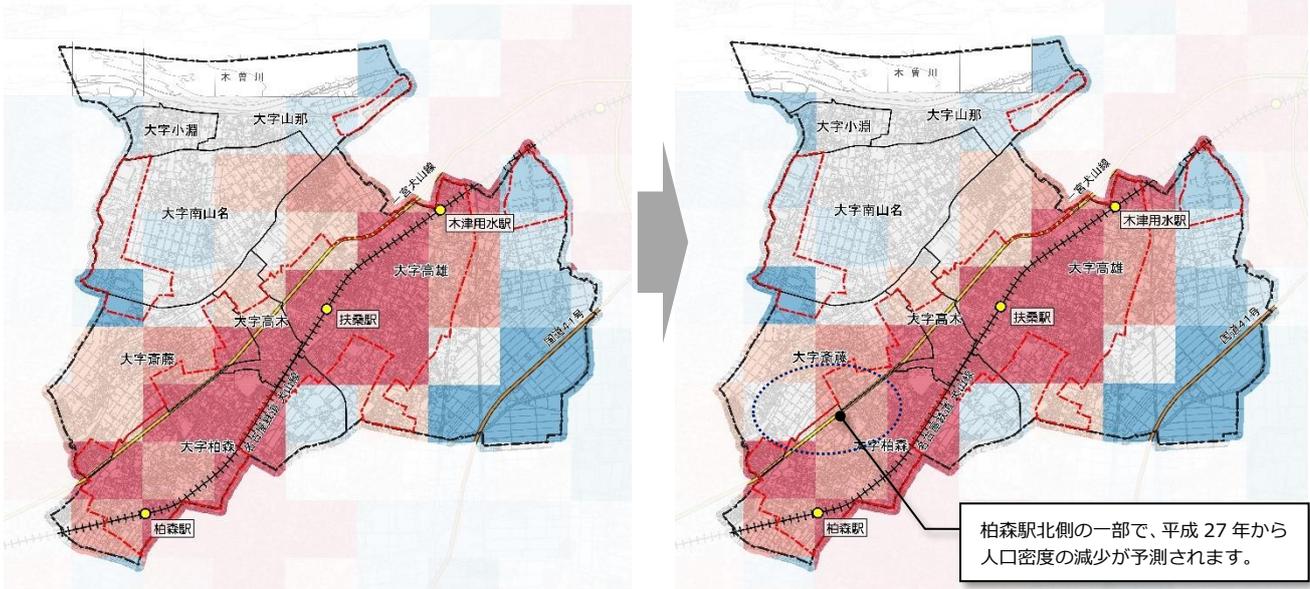


平成 27 年（2015 年）時点で 50 人/ha 以上の人口密度が高い地区は名鉄犬山線沿線の扶桑駅周辺、高雄地区西部、柏森地区です。令和 12 年（2030 年）でもその傾向は大きく変わりませんが、柏森駅北側の一部において人口密度の減少が予測されます。令和 27 年（2045 年）は小淵地区、斎藤地区、扶桑駅周辺、木津用水駅周辺で人口密度の減少が予測されます。

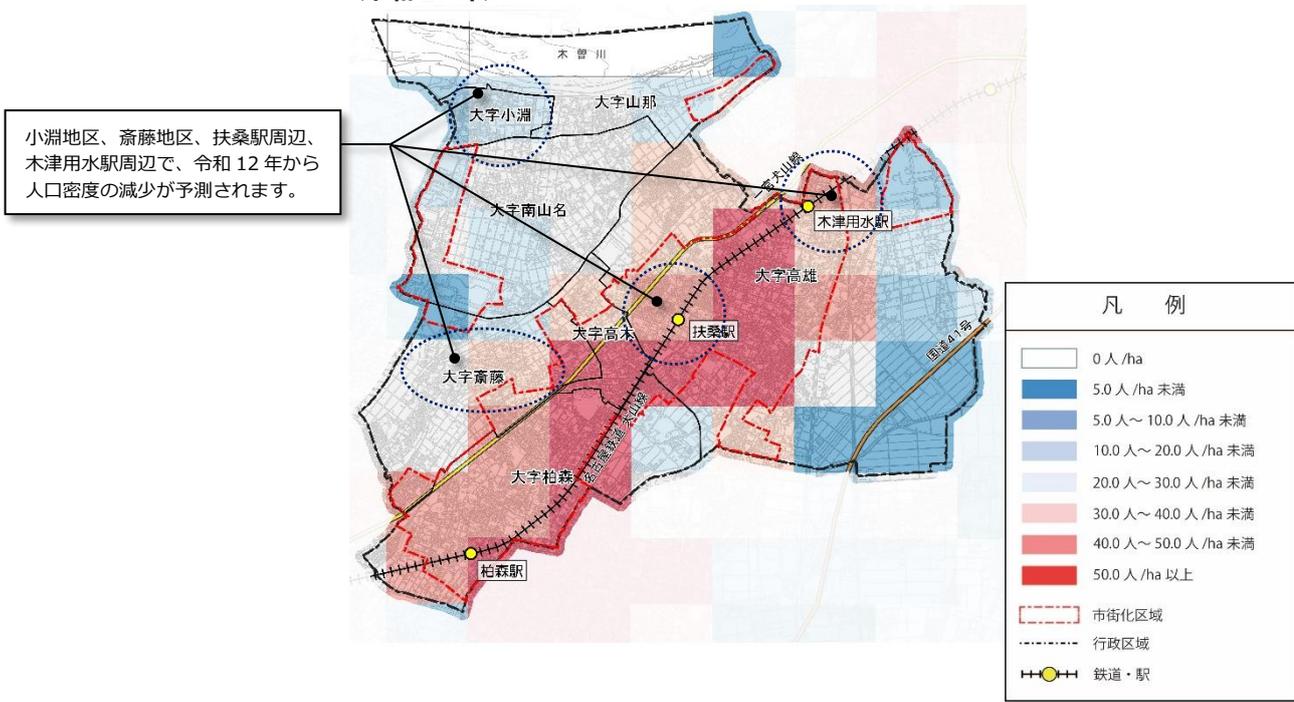
【人口密度の変化（500m メッシュ）】

<平成 27 年>

<令和 12 年>



<令和 27 年>



出典：国土数値情報「500m メッシュ別将来人口」



(2) 転入出の動向

転入は、令和元年（2019年）時点で多い順に隣接する犬山市、江南市、そして大口町を挟んで近接する小牧市からとなっています。一方、転出は、多い順にいずれも隣接する江南市、犬山市、大口町となっています。

【転入・転出の内訳（上位3位）】

転入数（1,380人）			転出数（1,307人）		
1位	愛知県犬山市	154人	1位	愛知県江南市	175人
2位	愛知県江南市	146人	2位	愛知県犬山市	117人
3位	愛知県小牧市	80人	3位	愛知県大口町	86人

出典：平成31年住民基本台帳人口移動報告

(3) 流入出の動向

流入者より流出者の方が多くなっています。本町からの通勤や通学による流入者は、平成27年（2015年）時点で多い順にいずれも本町に隣接する江南市、犬山市、大口町となっています。一方、流出者は、多い順に名古屋市、隣接する犬山市、大口町となっています。

【流入者数・流出者数の内訳（上位3位）】

流入者数（6,310人）			流出者数（12,919人）		
1位	愛知県江南市	1,536人	1位	愛知県名古屋市	2,898人
2位	愛知県犬山市	1,404人	2位	愛知県犬山市	2,002人
3位	愛知県大口町	578人	3位	愛知県大口町	1,658人

出典：平成27年国勢調査

(4) 昼夜間人口

昼夜間人口比は平成27年（2015年）時点80.3%で、夜間人口が多くなっています。

【昼夜間人口】

	夜間人口*	昼間人口*	昼夜間人口比
総数	33,806人	27,154人	80.3%
男	16,737人	12,210人	73.0%
女	17,069人	14,944人	87.6%

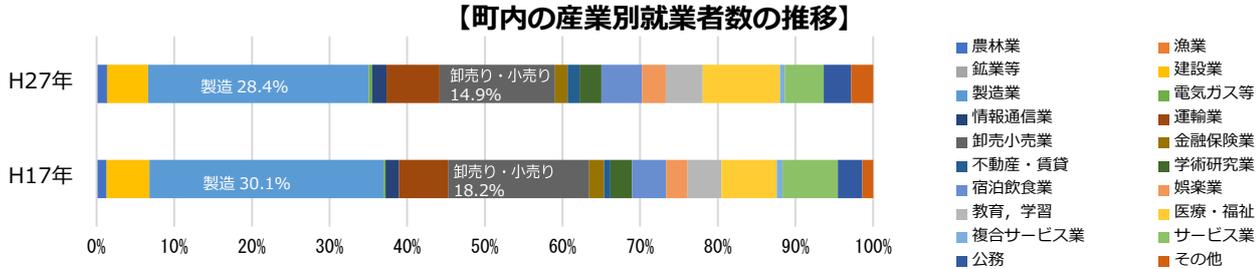
出典：平成27年国勢調査



3. 都市活力

(1) 産業別就業者数

産業別就業者数（町外から通勤する人数を含む）は、平成27年（2015年）時点で製造業の割合が28.4%と一番大きく、次いで卸売・小売業が14.9%となっています。合わせて約44%を占め、主力産業となっています。しかし、製造業は平成17年（2005年）と平成27年（2015年）を比較すると約200人の減少、同様に卸売・小売業は約500人の減少しています。



(2) 農業の推移

総農家数は減少傾向にあります。

【総農家数の推移】

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総農家数	506件	508件	468件	422件

出典：農林業センサス（平成12・17・22・27年）

(3) 工業の推移

工業事業所数はあまり大きな動きはありませんが、従業者数や出荷額においては平成26年（2014年）以降、増加傾向にあります。



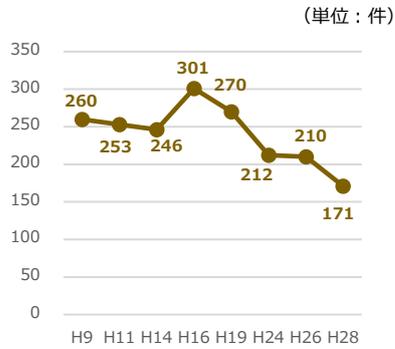
出典：工業統計調査（平成22・26・30年）／経済センサス活動調査（平成24・28年）



(4) 商業の推移

平成15年(2003年)の「イオンモール扶桑」の開店を受け、年間商品販売額は大幅に上昇し、それ以降400億円台で推移しています。一方で、商業事業所数と商業従業者数は平成16年(2004年)以降減少傾向にあります。

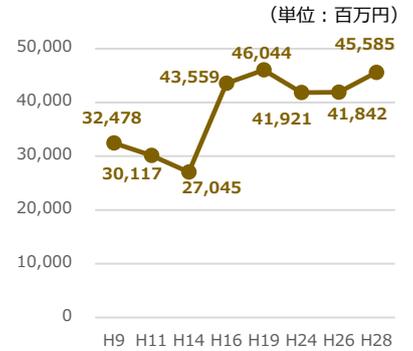
【商業事業所数の推移】



【商業従業者の推移】



【年間商品販売額の推移】



※平成9年を100%とした場合

出典: 商業統計調査(平成9・11・14・16・19・26年) / 経済センサス活動調査(平成24・28年)



4. 土地利用

(1) 土地利用

平成18年(2006年)から令和元年(2019年)の間で自然的土地利用が83ha減少し、宅地が38ha増加しています。市街化区域との区域界付近、南山名地区、(都)国道41号線沿いで宅地化が顕著です。自然的土地利用の中では、田や畑の減少が著しくなっています。河川は減っていないことから、木曾川扶桑緑地公園の水辺空間は保全されているといえます。

土地利用に関する近年の取り組みとして、駅を中心とした利便性の高い賑わいのある商業地や住宅地を誘導するために、駅周辺の用途地域を近隣商業地域に指定しています。また、農地においては、農地の保全、遊休農地の解消にあたり、農地所有者との意見交換や実地調査を実施しています。

【土地利用の変化(平成18年・令和元年)】

分類		面積	
		平成18年	令和元年
自然的土地利用	田	81ha	69ha
	畑	253ha	186ha
	森林	0ha	0ha
	河川	99ha	99ha
	水路	24ha	20ha
	自然的土地利用 合計	457ha	374ha
宅地	住宅地	326ha	358ha
	工業用地	24ha	25ha
	その他の宅地	114ha	119ha
	宅地 合計	464ha	502ha
道路・その他		197ha	243ha
上記 合計		1,118ha	1,119ha

出典：土地に関する統計年表(愛知県)

<平成18年>



<平成28年>



凡 例		
田	道路	市街化区域
その他の農用地	鉄道	行政区域
森林	その他の用地	鉄道・駅
荒地	河川地及び湖沼	
建物用地		

出典：国土数値情報



(2) 施設の立地状況

1) 高齢者関連施設

高齢者関連施設は、名鉄沿線の市街化区域に分散して立地しており、同区域の広範囲が利用徒歩圏に含まれています。しかし、市街化区域の一部では利用徒歩圏から外れている地域もあります。

2) 子育て支援施設

子育て支援施設は町内全域に分散しており、保育所は町内のほとんどが利用徒歩圏に含まれています。また、児童センターは1つ、子育て支援センターは2つの施設があり、市街化区域においては、概ね利用徒歩圏に含まれています。

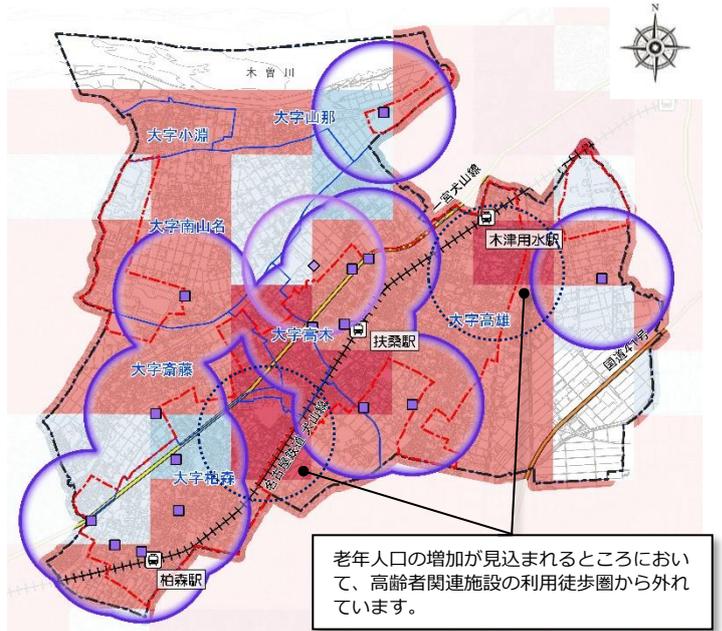
3) 商業施設

スーパーやコンビニが広範囲に立地しており、買い物等の利便性は高いです。しかし生鮮食品を扱うスーパーは本町の中央部にまとまっています。一方、人口増加が見込まれる高雄地区では、利用徒歩圏から外れています。

4) 医療施設

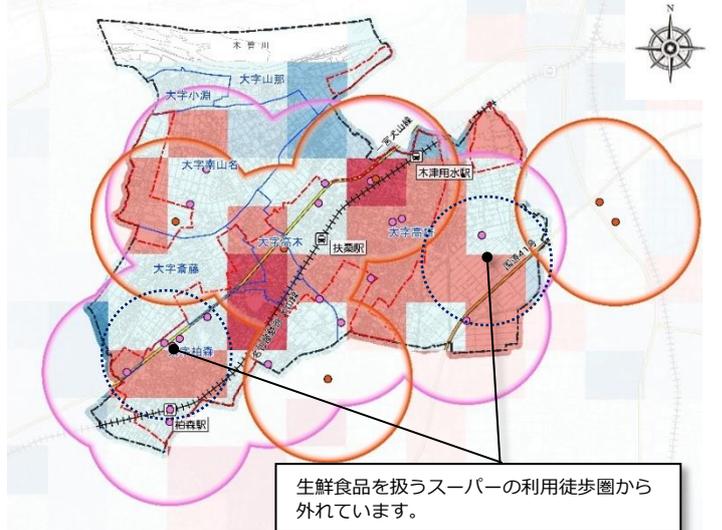
医療施設は、市街化区域全域に分散して立地しており、同区域のほとんどが利用徒歩圏に含まれています。しかし、大規模な医療施設は本町には立地していません。また、今後人口増加が見込まれる高雄地区において、内科外科を含む医療施設の利用徒歩圏から外れています。

【高齢者関連施設と平成27年から令和12年の老年人口増減】



出典：国土数値情報/有料老人ホーム・高齢者住宅を選ぶなら[かいごDB]kaigodb.com/厚生労働省 介護サービス情報公表システム(愛知県介護サービス情報公表システム)/愛知県統合型地理情報システム マップあいち

【商業施設と平成27年から令和12年の人口増減】



出典：国土数値情報/日本全国スーパーマーケット情報/日本全国ドラッグストア・調剤薬局マップ/NAVITIME 全国のコンビニ一覧

凡 例		平成27年⇒令和12年 老年人口・人口増減数
■	高齢者福祉施設	150人以上200人未満減少
◆	高齢者交流施設	100人以上150人未満減少
■	高齢者福祉施設 徒歩圏(500m)	50人以上100人未満減少
■	高齢者交流施設 徒歩圏(500m)	50人未満減少
●	スーパーマーケット	50人未満増加
●	コンビニエンスストア・ドラッグストア	50人以上100人未満増加
■	スーパーマーケット 徒歩圏(800m)	
■	コンビニエンスストア・ドラッグストア 徒歩圏(800m)	
---	市街化区域	
---	行政区域	
+	鉄道・駅	

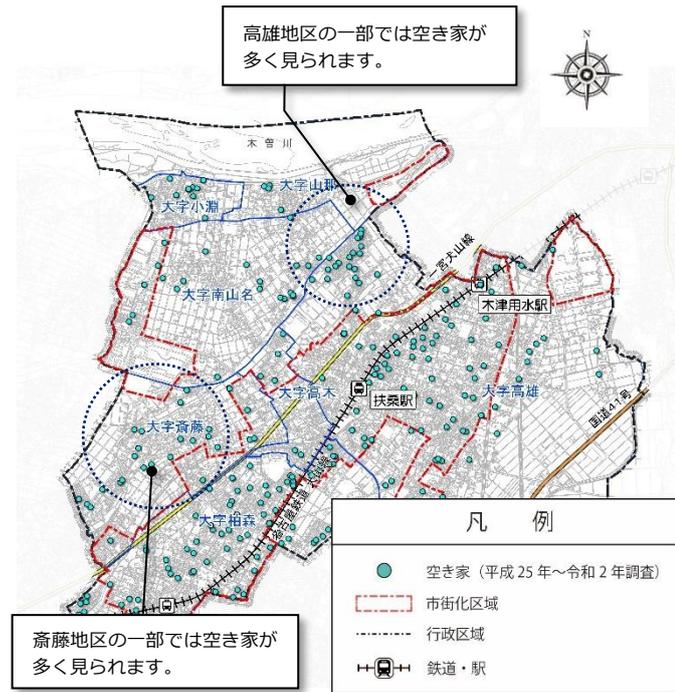


(3) 空き家と住宅地化

市街化区域では 136 件と空き家が多く見られます。また、市街化調整区域においても、111 件あり、斎藤地区・高雄地区の一部といった住宅が多いところでは、空き家が多く見られます。

【空き家の状況(平成 25 年から令和 2 年)】

	件数
市街化区域	136 件
市街化調整区域	111 件
合計	247 件



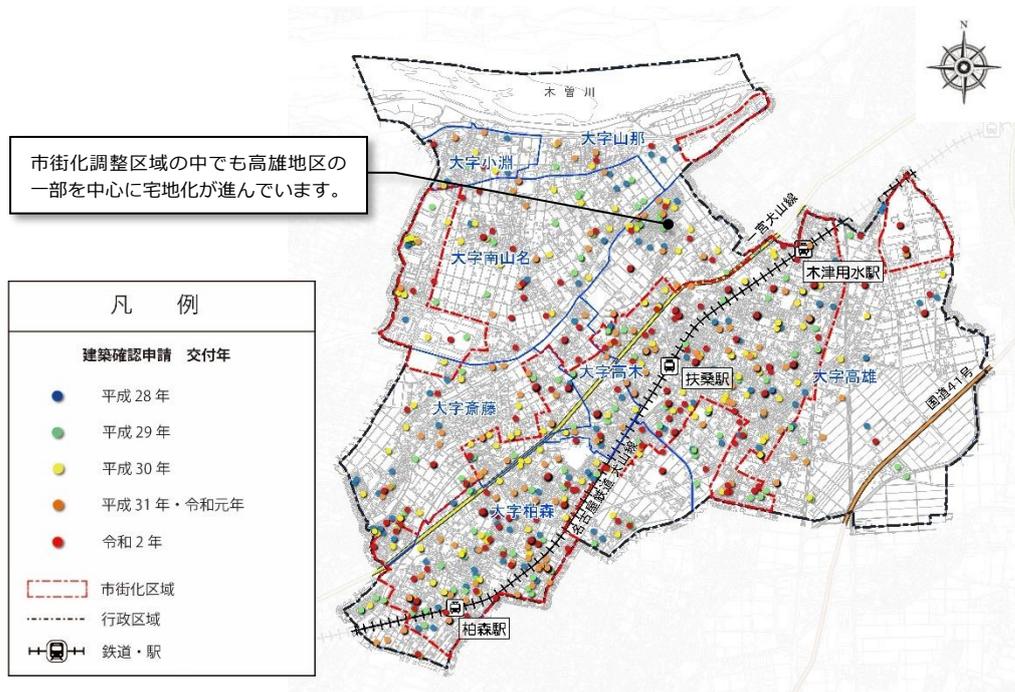
出典：扶桑町資料

市街化区域を中心に、近年宅地化が進んでいます。市街化調整区域においても、高雄地区の一部を中心に本町の北部で宅地化が進んでいます。

【新築件数(平成 28 年から令和 2 年)】

	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
市街化区域	170 件	149 件 (319 件)	182 件 (501 件)	175 件 (676 件)	150 件 (826 件)
市街化調整区域	72 件	67 件 (139 件)	67 件 (206 件)	85 件 (264 件)	61 件 (325 件)
合計	242 件	216 件 (458 件)	249 件 (707 件)	260 件 (940 件)	211 件 (1,151 件)

※ () 内は前年までの合計



出典：扶桑町資料



5. 都市施設

(1) 道路・交通

1) 都市計画道路

都市計画道路は、国道1路線、県道6路線、町道4路線の計11路線（延長約17,700m）が都市計画決定されています。令和3年（2021年）3月時点で整備率は63.1%となっています。なお、（都）国道41号線と（都）小淵江南線は現在事業が進められています。

近年の取り組みとして、（仮称）新愛岐大橋の整備に伴う（都）小淵江南線周辺の生活道路の交通安全対策を実施しています。

2) 公共交通ネットワーク

鉄道（名鉄線）が東西に走り、町内に3駅（柏森駅、扶桑駅、木津用水駅）が位置しています。

近年の取り組みとして、令和4年（2022年）10月より新たなデマンド型交通「チョイソコふそう」の実証実験を開始し、本格運行を目指しています。

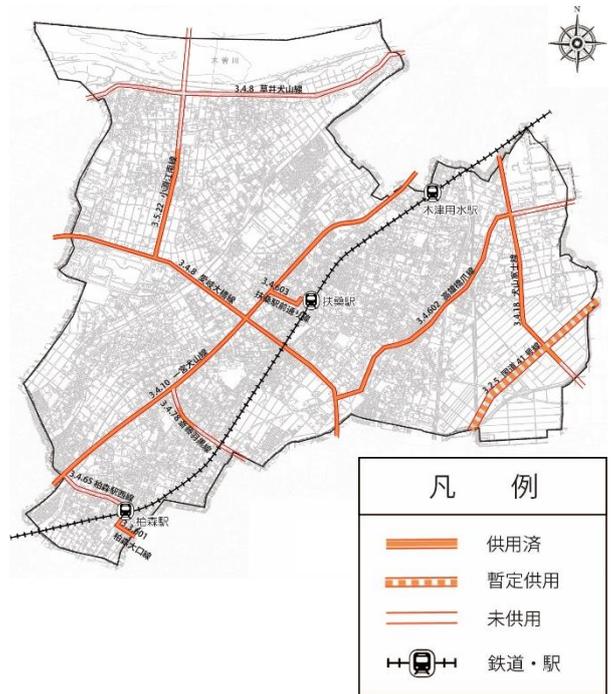
(2) 公園・緑地

1) 都市公園

市街化区域内を中心に、街区公園*（6箇所、1.41ha）と都市緑地（3箇所、13.05ha）が指定されています。なお、児童遊園はあるものの、市街化区域の一部には都市公園のない地区があり、公園的機能は少ない傾向にあります。

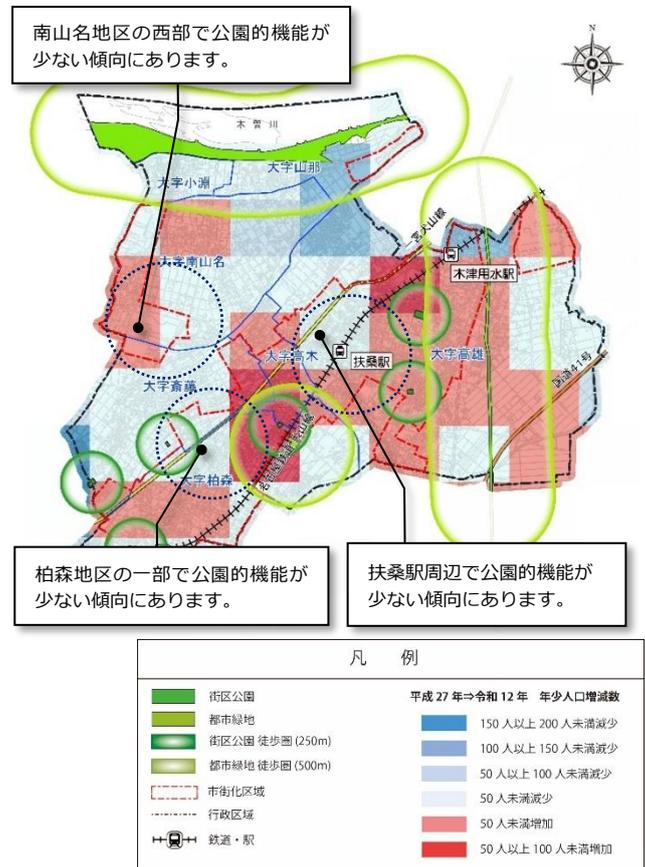
近年の取り組みとして、既存の公園において、防犯カメラの設置や指定緊急避難場所*の指定、ユニバーサルデザインを用いた看板の設置等を実施しています。

【都市計画道路網】



出典：扶桑町都市計画図

【都市公園と平成27年から令和12年の年少人口増減】



出典：国土数値情報／扶桑町資料



(3) 河川・下水道

1) 河川

本町には、木曽川、合瀬川、青木川が流れています。

近年の取り組みとして、川幅が狭く、浸水被害が多発している青木川下流で、県による改修が進められています。

2) 下水道

下水道は計画処理区域約 673ha が都市計画決定されています。令和 3 年（2021 年）3 月 31 日現在の接続率は 67.5%、供用開始区域面積は 255ha、普及率は 46.9%となっています。

近年の取り組みとして、汚水施設の整備や既存施設の維持・管理に関する事業を継続的に実施しています。



6. 自然環境・都市景観

(1) 緑

保存樹は、令和3年（2021年）3月現在で17種37本が指定されています。

また、緑化の推進にも取り組んでおり、各種事業を実施しています。

【緑化推進に関する事業の実績（平成23年から令和2年まで）】

事業名	実績
記念樹配布事業	苗木 839 本配布
緑化木配布事業	苗木 3,472 本配布
緑化推進事業補助金	生垣延長 57.3m （4件）
都市緑化推進事業補助金	緑化面積 858.3 m ² （6件）

出典：扶桑町資料

(2) 文化財

指定・登録文化財のうち、史跡や建築物として地域の景観を形成しているものは、11箇所あります。

【指定・登録文化財（史跡・建築物）】

名称	所在	種別	備考
旧岩手村跡の塚	大字小淵	史跡	記念物
小淵の渡し跡	大字小淵	史跡	記念物
恵心庵	大字高木	史跡	記念物
舟塚古墳	大字高雄	史跡	記念物
悟溪屋敷	大字南山名	史跡	記念物
般若用水元杵跡	大字小淵	史跡	記念物
長泉塚古墳	大字高雄	史跡	記念物
奉献常夜灯	大字山那	史跡	記念物
専修院東門	大字柏森	建築	有形文化財
覚王寺	大字高雄	建築	登録有形文化財
川田家住宅	大字南山名	建築	登録有形文化財

出典：扶桑町ホームページ



7. 防災・防犯

(1) 浸水想定区域

町内の広範囲が木曽川と新郷瀬川の浸水想定区域に指定されています。木曽川付近においては、最大5mを超える浸水が想定されています。

(2) 災害危険区域

木曽川付近が家屋倒壊等氾濫想定区域*に指定されています。

(3) 地震

平成26年(2014年)5月の愛知県被害予測調査では、東海地震・東南海地震・南海地震が連動して発生する場合、町内のほぼ全域で震度5強以上の揺れが想定されています。帰宅困難者については、約1,400人発生することが予測されています。

また、多くの区域で液状化*のおそれはない、もしくは極めて低いと想定されています。

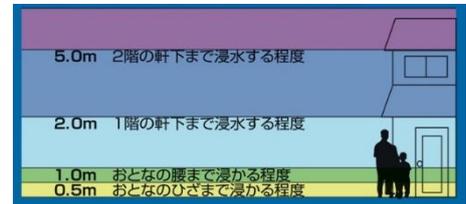
(4) 狭あい道路の状況

本町の市街化区域や市街化調整区域の集落には、4m未満の狭あい道路*が存在します。

(5) 防災・防犯に関する近年の取り組み

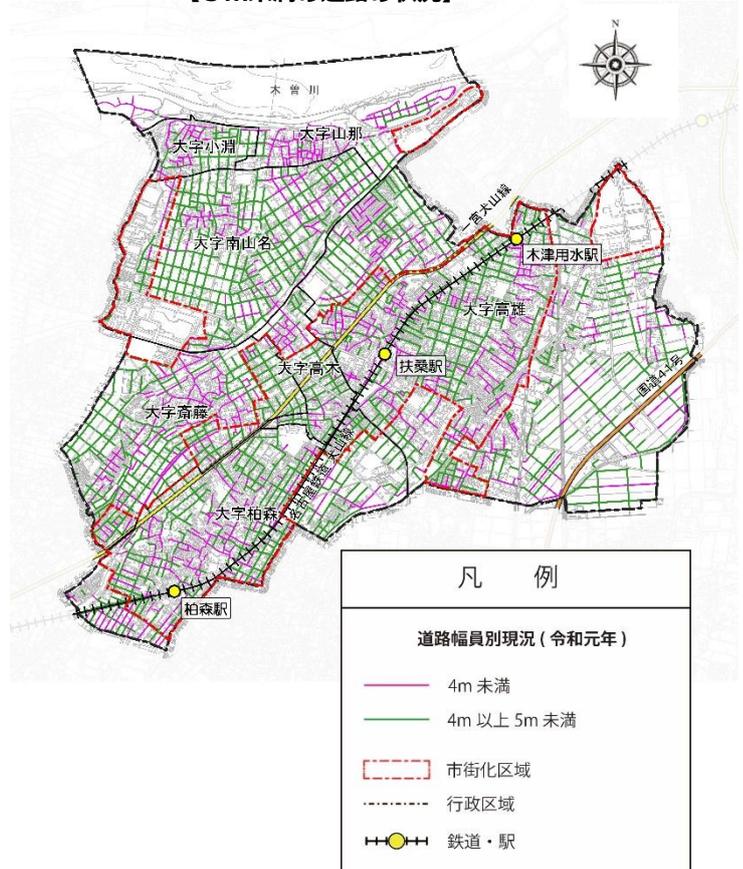
建替え時のセットバック*の指導、消火栓・防火水槽の修繕、防災行政無線のデジタル化等を実施しています。

【木曽川の浸水想定区域】



出典：扶桑町ハザードマップ

【5m未満の道路の状況】



出典：道路台帳/扶桑町資料